

乳がん 高度検診・治療センター NEW ーす NO.36

2017.5

より適切な乳がん治療の選択のために

～乳がん病変組織における遺伝子検査～

乳がんの手術を受けて、ホルモン受容体陽性・HER2陰性で腋窩リンパ節転移陰性であれば、多くは治りやすいがんなのですが、術後10年でみると約1割の患者さんが再発をきたします。このタイプ(ルミナルタイプ)でリンパ節転移陰性乳がんでは、術後にホルモン療法のみとするか、ホルモン療法に加えて化学療法(抗がん剤による治療)を行うか、迷うことが少なくありません。



再発リスクの判定方法について

近年、遺伝子検査(多遺伝子アッセイ)による乳がんの再発リスクを判定する方法が開発され、将来的にはこの多遺伝子アッセイの普及による乳がんの個別化医療が実現すると期待されています。

多遺伝子アッセイとは、手術時に摘出されたがん組織の一部を用いて、乳がんに関連する20～100個程度の遺伝子の発現を測定・解析することで、将来がんを再発しやすいかどうか、あるいはその患者さんのがんが薬剤に対してどう反応するか、などの特徴がわかります。



多遺伝子アッセイの結果判定による メリット

多遺伝子アッセイの結果、乳がんの再発リスクが低いと判定された場合、不必要な術後化学療法を省略することで、抗がん剤による副作用の不安を軽減することができます。逆に、乳がんの再発リスクが高いと判定された場合、適切な化学療法を追加することによって、再発の可能性が低くなり、将来への不安の軽減につながると考えられます。



当院でできる検査

このような多遺伝子アッセイには数種類のものが開発されていますが、当院では国内で開発されたCurebest® 95GC Breastと、米国で開発され多くの国で実用化されているオンコタイプ DX®、の2種類の多遺伝子アッセイが可能です。ただ、多遺伝子アッセイは健康保険の適用外ですので、かなり高額です。

検査の対象かどうか、
また検査を受ける必要が
あるかどうかについては
主治医とよくご相談ください。

乳腺外科
西前 綾香



市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865